

特定非営利活動法人 日本地域部活動文化部推進本部 設立趣旨書

1 趣 旨

人口減少・超高齢化の時代に入り、国の政策・地方創生が推進される中、これまで以上に地域の活性化が求められ、自律した持続可能な地域形成が社会全体の課題となっている。老朽化が進む社会インフラ（道路や建物）のメンテナンス等のハード面の改善だけでなく、地域に根付く歴史や文化の継承などソフト面からも豊かな暮らしを維持していくことが、まちづくりにおいて重要である。まちづくりの根幹は、ひとづくりにある。社会の要請に応える持続可能な教育への投資が一層求められる時代を迎えている。

小中高の教育において、令和の日本型教育（全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現）が議論される中、この法人が実践する文化系・地域部活動（以下「地域部活」という。）は一人一人の個性を最大限に発揮しながら、多様な他者を尊重し、全体でコラボレーションする活動を通して、協働的な学びの場を提供している。

近年、教員の働き方改革の観点から部活動の在り方が問われている。見直し策の一つとして、学校の部活動の地域移行が検討されるようになった。部活動改革は、令和の日本型教育を真に実現していく上でも課題の一つである。そういった中、国の方針を先取りする形で平成30年に掛川市の地域部活が創部した。前任の団体から運営を引き継ぐこの法人では、半世紀以上にわたり、肥大化・過熱化・活動時間の長時間化・活動に係る費用の高額化等の諸問題を抱えてきた部活動の現状への反省をもとにした改善策を施しつつ、学習指導要領の部活動の定義にある「生徒の自主的、自発的な参加」を最大限に尊重する環境づくりを行う。さらに、部活動が抱える諸問題を誘発しているコンクール等の大会には関与せず、生徒が高いモチベーションを維持し、短時間で、現場に関わるスタッフの負担を極力最小限に、かつ活動費用を低額に抑えながら運営できる仕組みを全国に向けて提供することを目指す。活動の成果を発信する場では、部活が拠点を置く地域固有の歴史・文化・産業をテーマにして創作する形をとる。全国一律に並べ、表現技術のクオリティを審査表彰するような大会は行わない。部活動改革の本質を捉え、地域活性化の起爆剤となり、将来的に地方創生のエンジンの一つになっていくことが、この法人の社会的使命である。

部活動の地域移行にあたっては、肥大化した学校の部活動をそのまま移行するのではなく、コンパクト化した地域部活と共存する形で、地域にある各種教室などの習い事や塾、子どもが参加可能な各種芸術団体（楽団や劇団等）、放課後の居場所に最適なアフタースクールやフリースペースなど様々な環境を提供する団体との間で、全体として子どもたちが多様な文化や芸術を体験可能な環境を創造していく地域モデルを提言していく。部活動の定義にある「文化や科学等に親しむ」が部活動の範疇であり、表現技術の質の向上を重視

した指導やレッスンは、習い事や芸術団体が担うものであると考える。

あくまで部活動の定義を原点に捉えた本質的な学びの場の提供と予測不能な時代に自ら未来の創り手となる人材の輩出を目指す。中学から高校と続き、その先の大学生及び社会人による地域部活に至るまでの長期的展開を図りながら、循環型で持続可能な活動拠点の拡大を支援していく。目的やビジョンを共有できる地域の関係各位と協働し、文化力の特性を生かした事業を通して、地方創生及び地域振興に寄与することを設立の目的とする。

地域部活は、2020 オリンピック・パラリンピック東京大会の文化プログラムの一つとして、静岡県文化プログラム推進委員会（以下「ブンプロ」という。）が平成 29 年度から令和 2 年度までの 4 年間、地域密着プログラムに採択したことで最初の基盤が出来上がった。ブンプロの特徴は「地域とアートが共鳴する」をテーマに文化の力を活用する形で観光、まちづくり、教育、福祉など様々な分野と協働しながら、企画発案した民間団体が主体となり市民の中からプロデューサーを輩出することをねらいとしている点である。21 世紀の文化政策に新たな光をあてるブンプロの考え方は、地域が抱える課題に対して文化の力で何をなせるのかを問うものであり、冒頭に述べたソフト面からの持続可能なまちづくりに通じ、令和の日本型教育の方向性にも沿い、地方創生の支えとなるひとづくりに寄与するものと確信する。2020 年度を「文化系・地域部活動元年」と位置付け、地域部活を「ブンプロのレガシー」の一つであることを前面に押し出しながら全国展開を図っていく。

これらの趣旨に共感し賛同する多くの市民が織りなす文化の力を結集しながら事業を推進していくことを願い、この団体を特定非営利活動法人として設立する。

2 申請に至るまでの経過

平成 29 年～令和 2 年

「新時代の課外活動への挑戦 ～地域部活・掛川未来創造部 Palette～」が
静岡県文化プログラム・地域密着プログラムに採択。

平成 30 年 4 月創部 中学 1 年 17 名が入部（掛川市内 5 校より参加）

令和元年度 中学 2 年 15 名、1 年 4 名、計 19 名が所属（掛川市内 6 校より参加）

令和 2 年度 中学 3 年 15 名、2 年 4 名、1 年 23 名、計 42 名が所属（市内 7 校より参加）

令和 2 年 6 月 前任の運営団体（一般社団法人ふじのくに文教創造ネットワーク）が解散。

一時的に任意団体が運営を引き継ぎ、今回新たに全国展開を行う法人設立の申請に至る。

令和 2 年 1 1 月 9 日

特定非営利活動法人 日本地域部活動文化部推進本部
設立代表者 静岡県掛川市家代 1 8 3 4 番地
齊藤 勇